

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K04787

研究課題名（和文）レジリエンスを考慮した広域景観計画と国土景観観察センターの国際研究

研究課題名（英文）International Study on Resilient Landscape Planning and Landscape Observatory

研究代表者

宮脇 勝（Miyawaki, Masaru）

名古屋大学・環境学研究科・准教授

研究者番号：30280845

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、衛星画像データ、GISデータなどを用いた地図化の技術的課題を解決した上で、名古屋都市圏から東海圏に至る景観観察を行い、名古屋大学にランドスケープ・オブザーベトリーの設置を行い、レジリエンスを考慮した景観資源について地図化した研究成果を可視化し、教育に活用できるシステムを整備した。また、海外における景観保護、風力発電施設の立地適正化を目的としたコントロール手法として、風車のゾーニング手法を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果物である衛星画像データ、GISデータなどを用いた地域特性地図のデジタル化は、都市計画分野のスマート化において学術的意義があるとともに、名古屋都市圏から東海圏に至る景観観察を行い、名古屋大学にランドスケープ・オブザーベトリーを設置し、一般にデジタル地図を教育に活用する社会的意義がある。また、海外における景観保護、風力発電施設の立地適正化手法として、陸上と洋上の風車ゾーニング手法を明らかにすることで、日本において参照し、制度化に役立てる際の先例となる社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：After solving the technical issues of mapping using satellite image data, GIS data, etc., this research conducted landscape observation from the Nagoya metropolitan area to the Tokai region, installed a landscape observatory at Nagoya University, and developed a system to visualize the mapped research results and utilize them for education. I also clarified onshore and offshore planning systems as control methods for landscape protection and location optimization of wind power generation facilities overseas.

研究分野：都市計画・景観計画

キーワード：景観 ランドスケープ 景観計画 景観観察センター 国際比較 風車 ゾーニング

### 1. 研究開始当初の背景

近年の集中豪雨、台風、地震による広域災害で被害を大きくしている原因の一つに、危険な地域の広域土地利用が挙げられるが、個人の財産権や経済活動を中心とした現状の都市計画では、有効な土地利用規制をもたらずまでには至っていない。土地利用計画として市街地の立地適正化も、防災を目的とした土地利用規制に課題が残っている。一方、景観計画は単にデザインのための規制手段に留まり、諸外国のような広域的土地利用を規制できていない課題があり、防災を考慮していないのも日本の課題である。個別デザインではなく、本研究の視点となる自然環境を骨格に、景観と防災を目的に適切な広域土地利用を促すという視点では、景観と防災の国土政策の両立、総合化が可能で、都市計画の立地適正化にも役立てられる。そして景観資源として収集するデータベースは、被災後における復興のレジリエンスに役立てられる。

海外では、近年欧州景観条約を通じて各国の取り組みが活発化し、景観の様々な制度が開発され、災害への対応、住民参加、景観教育への取り組みが積極的に見られる。具体的に、地震や洪水が度々生じているイタリアでは、GISを用いた災害リスクと文化財や景観の傷つきやすさの図面化、洪水対策のための防災計画の景観アセスメントといった、異なる分野間、諸計画間の総合評価や対策が講じられている。他方、ドイツでは再生可能エネルギーの持続性を高めるための土地利用計画の実務的導入が進み、広域計画においてエネルギー施設の立地と景観との整合を図っている。

### 2. 研究の目的

本研究は、景観と防災から土地利用に着目し、広域に及ぶ重要度の高い課題を捉え、要因を明らかにし、日本の都市計画、景観計画制度の改善に役立てることを目的とする。

これらの具体化に向けて、名古屋都市圏や東海地方からモデル的に景観アトラスを作成する。また、より具体的で持続的な国土利用を構想、教育の場で活用を行うため、「景観観察センター」(Landscape Observatory)の役割について考察する。具体的に、名古屋大学内に既にある計画系実験室(環境シミュレーション室)を使い、本研究で作成する景観アトラスの図面をプロジェクションマッピングによって投影する等、図面を展示しながら景観教育や環境教育に用いる方法を検討する。また、土地利用の観点から、再生可能エネルギー施設の立地による景観の課題を低減する方法を検討する。

### 3. 研究の方法

本研究での「景観」とは、申請者が既往研究で明らかにした欧州景観条約の景観の定義(欧州評議会決定)を用いており、自然環境から都市環境まで広域の土地利用全体を指し、土地利用コントロールに深く関わる土地利用景観に着目する。特に本研究では日本の国土の防災とレジリエンスを考慮し、平常時の景観のみならず、災害時の自然景観を考慮した土地利用計画に帰着させるため、国際比較研究によって広域景観計画手法を研究する。

そこで本研究では、まず土地利用情報を用いて人々に伝えるための基礎資料となる景観アトラス(景観地図集)を作成する。申請者は豊橋市、名古屋都市圏、伊勢湾流域を取り上げた。分析結果を、プロジェクションマッピングを使って投影することで、より多くの人々が土地利用景観の分布や構造を読み取りやすくする。

本研究で特に明らかにするのは、景観アトラスで収集した複数の要素の地図情報を重ね合わせ、複合的構造を広域的に読み解くことにある。景観資源と災害危険度の分布だけではなく、本研究では、複合的な景観資源を重ね合わせ、地域の景観価値を保全し、レジリエンスを考慮しながら暮らしのために利活用することで、防災と環境保全の両立の方法を検討する。また、景観アトラスを活用し、景観に配慮した再生可能エネルギー施設の立地の検討を行うため、国際比較研究を行う。

#### 4. 研究成果

本研究では、国土景観観察センターに相当する名古屋大学にランドスケープ・オブザーベトリー（環境観察室）の設置を行い、東海地方、名古屋大都市圏と木曽三川流域のランドスケープ情報と市街化情報をGISで分析し、その研究結果を立体地形模型の上からプロジェクションマッピングするシステムを開発した。また、ドローンの景観写真、航空写真、衛星写真とともに観察する研究を実施した。さらに、名古屋大都市圏と木曽川流域の景観と防災の両方に関わる土地利用や災害復興に関わるレジリエンスの研究を行った。

本研究で設置したランドスケープ・オブザーベトリー（Landscape Observatory）の施設を用いて、名古屋大都市圏と木曽三川流域に関する研究成果を、2019年12月に「まちと住まいの集い」の講演会において一般に公開した（図1）。

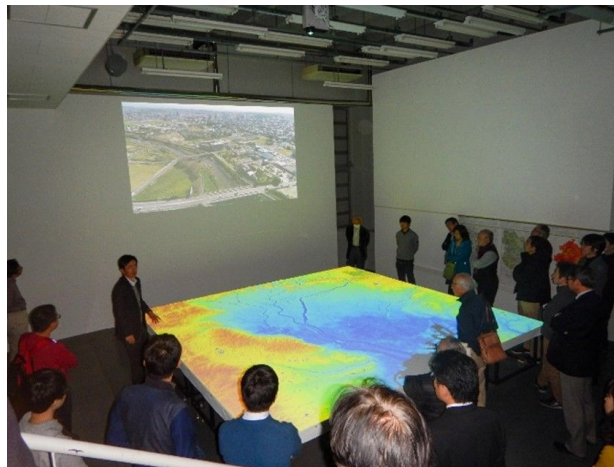


図1 名古屋大学に設置したランドスケープ・オブザーベトリー（環境観察室）公開の様子

2019年度の研究成果の実績として、「法律・計画・事業を結ぶ景観計画とアーバンデザイン」（共著、『まちを再生する公共デザイン』学芸出版社（京都）、pp.103-114）を発表した。また査読付き論文として、「白鳥庭園を事例とした池泉回遊式庭園における景観テーマ別の管理作業量の算出」（日本造園学会、ランドスケープ研究82巻5号）を発表した。その他に、「名古屋大学「ランドスケープ・オブザーベトリー」設置のための研究 GIS データベースの作成と公開について」（日本建築学会大会）と、「GIS による「ランドスケープ・ユニット」と「東海アトラス」の作成に関する研究」（日本建築学会大会）、「名古屋市の都市計画公園の形成類型と震災復興仮設住宅で不足する公園面積の算出」（日本建築学会大会）、「国際景観学とアーバンデザイン」（第10回適塾路地奥サロン会誌）を発表した。

2020年度の研究成果の実績として、LANDSAT衛星画像を用いて名古屋大都市圏における1975年から2020年までの市街化動向をGISで分析し、景観と防災に関わる土地利

用や災害リスクに関わるレジリエンスについてGISで分析を開始した。

また、歴史的景観に関して、東海地方の水田を対象に、航空写真と農地のGISデータを組み合わせた分析を開始した。

具体的な成果として、三重県松阪市を対象とした古代条里制水田の景観に関する研究を行い、査読付き論文として、「水田の歴史的類型による生態的環境と労働生産性の比較および維持管理シナリオの検討」（日本造園学会、ランドスケープ研究83、5号）を発表した。

一方、海外のランドスケープに関わる土地利用規制の調査として、イタリアについて実施し、査読付き論文として、「イタリアの土地利用規制を伴う風景計画と風景アトラスの策定状況に関する研究 - 州の「風景区域」、「風景テーマ」、「風景アトラス」、「風景計画図」の比較 -」（都市計画学会、都市計画論文集、Vol.55, No.3）を発表した。また、「3ステップ100年の風景政策と効果」（都市計画、Vol.69, No.6）を発表し、景観と土地利用規制を組み合わせた計画手法の展開を明らかにした。

また、愛知県津島市の防災計画とドイツのランドスケープに関する調査ワークショップについて、「Records of International Architectural and Urban Design Workshops for Students 2009 - 2019」（共著、名古屋大学）に発表した。

2021年度は、国土景観観察に関わる研究論文の発表と、広く景観情報の収集成果を解説するシンポジウムを通じて、研究を展開した。

東海地方の景観情報をマッピングする方法に関する査読付き研究論文として、「GISを用いた伊勢湾岸地域における古代条里制の歴史的土地利用景観キャラクター化 - 条里制の分布に基づく歴史的土地利用景観のアセスメント -」（都市計画学会、都市計画論文集、Vol.56, No.2）の作成と発表を行った。この論文は、中日新聞の記事で、「景観と農政組み合わせを」として掲載され、一般市民に公表された。

また、名古屋市の景観資源として、市民緑地の環境に関する査読付き研究論文の「名古屋市都心部における産業遺産の保存を含む緑地整備と管理に関する研究 - 市民緑地認定制度を活用した民間企業によるノリタケの森の整備プロセスと緑地の管理作業量の計測 -」（都市計画論文集、Vol.56, No.3）の作成と発表を行った。

さらに、海外の土地利用規制を伴う景観保護制度に至る経緯に関する査読付き研究論文として、「イタリア共和国憲法第9条の「風景保護」に関する制定時の議論 - 風景の保護とコミュニティ権、国家と州政府の役割 -」（都市計画論文集、Vol.56, No.3）の作成と発表を行った。この研究により、国と州政府は、コミュニティの保護を目的に、景観保護を行う責務が憲法9条に明記され、法制化された経緯が明らかにされた。

こうして2021年度は、国内外の国土景観を観察し、分析した結果を発信するとともに、景観保護の基礎となったイタリアの憲法条文の制定経緯を明らかにした。

その他に、都市計画学会誌に論文「風景とは何か」を掲載し、シンポジウムにて「景観とは何か」を静岡文化芸術大学で発表し、景観資源の特定の重要性を論じた。

また、講演会において、「洋上風力発電施設と景観」、「洋上風力における景観問題の合意形成について」、「脱炭素社会におけるスマートシティの一般化」を通じて、景観保全と再生可能エネルギーの土地利用に関する教育活動を行った。

2022年度の研究成果の実績として、査読付き論文の「A BASIC ANALYSIS OF ACTIVE TRAVEL IN NEW TOWNS OF METROPOLITAN NAGOYA」（共著、日本建築

学会)、「ランドサット衛星画像データを用いた名古屋都市圏の年代別市街地キャラクターライゼーションに関する研究 1975年から 2020年の年代別市街地と土地の傾斜角から見た特性」(都市計画論文集、Vol.57, No.1)を公表し、名古屋都市圏の景観と防災のGISデータの重ね合わせによる分析、郊外ニュータウンの景観と生活の質に関わる分析を公表し、傾斜地のリスクと環境保全の重要性を顕在化した(図2)。

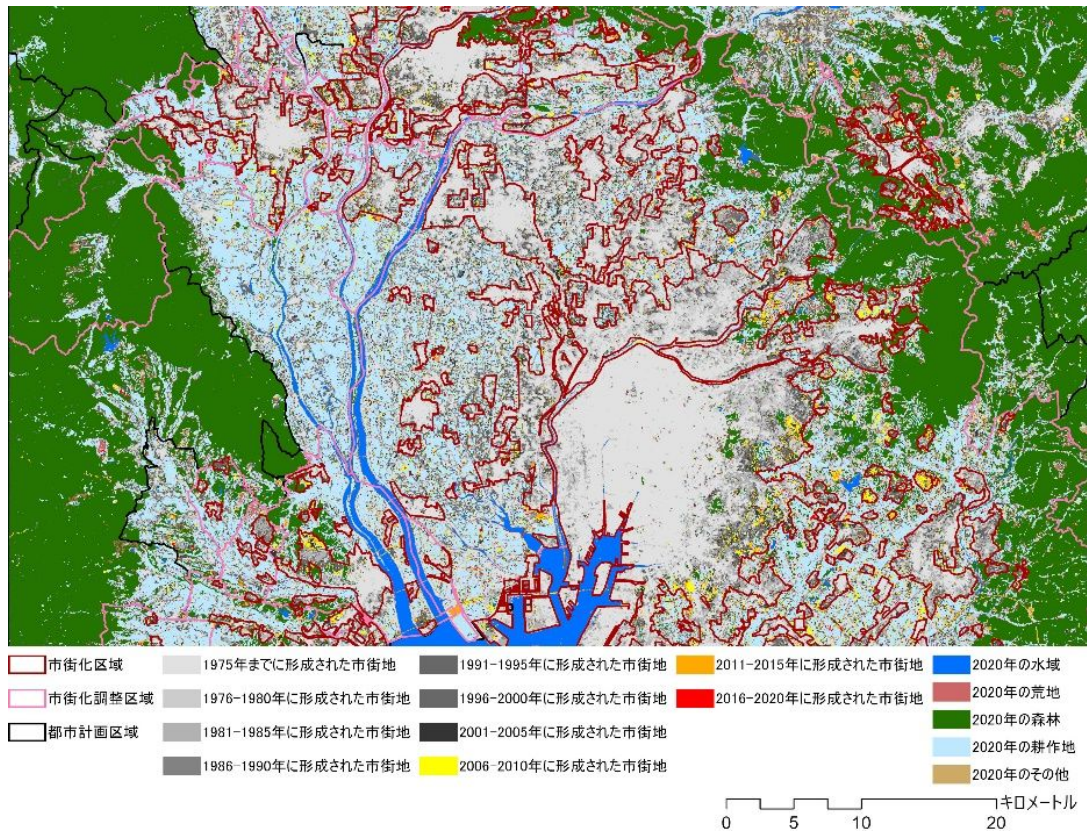


図2 ランドサット衛星画像データを用いた名古屋都市圏の年代別市街地キャラクターライゼーション。年代別市街地の分析図

さらに、景観保護と再生可能エネルギーのための土地利用コントロールの国際研究として、査読付き論文の「ドイツの州発展計画とリージョンの風車ゾーニングの関係性、ベルリン州とブランデンブルク州のオープンスペースネットワーク規制が風車の立地適正化に果たす役割」(日本建築学会計画系論文集、87巻797号)、「洋上風力発電施設の景観に関わる「海洋計画」と「離岸距離」に関する国際比較、洋上景観保護のための風車ゾーニングと最小離岸距離に関する調査」(都市計画論文集、Vol.57, No.3)を公表した。これらの研究により、欧米諸国で主力となっている再生可能エネルギー発電施設の風車の景観に与える影響とその立地コントロール方法について、風車の視覚的影響を低減させるための景観評価方法やゾーニング手法について、詳細に明らかになった。

以上の研究成果をまとめると、衛星画像データ、GISデータなどを用いた地図化の技術的課題を解決した上で、名古屋都市圏から東海圏に至るレジリエンスを考慮した景観観察を行い、名古屋大学にランドスケープ・オブザーベトリーを設置し、地図化した研究成果を可視化し、教育に活用できるシステムを整備した。また、海外における景観保護、再生可能エネルギー施設の立地適正化を目的としたコントロール手法を体系的に明らかにする研究成果をもたらした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 BAILDON Martin, MIYAWAKI Masaru, YAMADE Miya	4. 巻 88
2. 論文標題 A BASIC ANALYSIS OF ACTIVE TRAVEL IN NEW TOWNS OF METROPOLITAN NAGOYA	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 618 ~ 629
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.88.618	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 宮脇 勝	4. 巻 57
2. 論文標題 洋上風力発電施設の景観に関わる「海洋計画」と「離岸距離」に関する国際比較, 洋上景観保護のための風車ゾーニングと最小離岸距離に関する調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 546 ~ 553
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.57.546	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 宮脇 勝	4. 巻 87
2. 論文標題 ドイツの州発展計画とリージョンの風車ゾーニングの関係性, ベルリン州とブランデンブルク州のオープンスペースネットワーク規制が風車の立地適正化に果たす役割	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6. 最初と最後の頁 1259 ~ 1270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.87.1259	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 宮脇 勝, 田淵 祐哉	4. 巻 57
2. 論文標題 ランドサット衛星画像データを用いた名古屋都市圏の年代別市街地キャラクタライゼーションに関する研究, 1975年から 2020年の年代別市街地と土地の傾斜角から見た特性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 218 ~ 227
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.57.218	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮脇 勝	4. 巻 56
2. 論文標題 イタリア共和国憲法第9条の「風景保護」に関する制定時の議論 - 風景の保護とコミュニティ権、国家と州政府の役割 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 493 ~ 500
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.56.493	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 降旗賢人、宮脇 勝	4. 巻 56
2. 論文標題 GISを用いた伊勢湾岸地域における古代条里制の歴史的土地利用景観キャラクタライゼーション - 条里制の分布に基づく歴史的土地利用景観のアセスメント -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 250 ~ 258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.56.250	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本みずほ、宮脇 勝、山出美弥	4. 巻 56
2. 論文標題 名古屋市中心部における産業遺産の保存を含む緑地整備と管理に関する研究 - 市民緑地認定制度を活用した民間企業によるノリタケの森の整備プロセスと緑地の管理作業量の計測 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 453 ~ 460
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.56.453	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮脇 勝	4. 巻 70-3
2. 論文標題 風景とは何か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市計画	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮脇 勝	4. 巻 55
2. 論文標題 イタリアの土地利用規制を伴う風景計画と風景アトラスの策定状況に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 1431 ~ 1438
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.55.1431	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高取 千佳, 村瀬 由伎, 宮脇 勝, 北村 淳一, 清水 裕之	4. 巻 83
2. 論文標題 水田の歴史的類型による生態的環境と労働生産性の比較および維持管理シナリオの検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ランドスケープ研究	6. 最初と最後の頁 645 ~ 650
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5632/jila.83.645	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮脇 勝	4. 巻 347
2. 論文標題 3ステップ100年の風景政策と効果	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市計画	6. 最初と最後の頁 28 ~ 31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 降旗賢人, 宮脇勝, 高取千佳	4. 巻 DVD
2. 論文標題 名古屋大学「ランドスケープ・オブザーベトリー」設置のための研究 GIS データベースの作成と公開について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集	6. 最初と最後の頁 527-528
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 田淵祐哉、宮脇勝、高取千佳	4. 巻 DVD
2. 論文標題 GIS による「ランドスケープ・ユニット」と「東海アトラス」の作成に関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集	6. 最初と最後の頁 529-530
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉崎航、宮脇勝、高取千佳	4. 巻 DVD
2. 論文標題 名古屋市の都市計画公園の形成類型と震災復興仮設住宅で不足する公園面積の算出	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集	6. 最初と最後の頁 781-782
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮脇 勝	4. 巻 10
2. 論文標題 国際景観学とアーバンデザイン	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 適塾路地奥サロン会誌	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高取 千佳・山下 尚行・宮脇 勝・清水 裕之・川口 暢子	4. 巻 82
2. 論文標題 白鳥庭園を事例とした池 泉回遊式庭園における景観テーマ別の管理作業量の算出	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ランドスケープ研究	6. 最初と最後の頁 505~510
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5632/jila.82.505	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 宮脇 勝
2. 発表標題 洋上風力発電施設の景観に関わる「海洋計画」と「離岸距離」に関する国際比較，洋上景観保護のための風車ゾーニングと最小離岸距離に関する調査
3. 学会等名 日本都市計画学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮脇 勝
2. 発表標題 イタリア共和国憲法第9条の「風景保護」に関する制定時の議論 - 風景の保護とコミュニティ権、国家と州政府の役割 -
3. 学会等名 日本都市計画学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤本みずほ、宮脇 勝
2. 発表標題 名古屋市中心部における産業遺産の保存を含む緑地整備と管理に関する研究 - 市民緑地認定制度を活用した民間企業によるノリタケの森の整備プロセスと緑地の管理作業量の計測 -
3. 学会等名 日本都市計画学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮脇 勝
2. 発表標題 洋上風力における景観問題の合意形成について
3. 学会等名 洋上風力発電の地域における社会的合意形成研究フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮脇 勝
2. 発表標題 洋上風力発電施設の立地と景観
3. 学会等名 洋上風力発電の地域における社会的合意形成研究フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮脇 勝
2. 発表標題 景観とは何か
3. 学会等名 静岡文化芸術大学（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮脇 勝
2. 発表標題 脱炭素社会におけるスマートシティの一般化
3. 学会等名 名古屋大学 まちと住まいの集い
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮脇 勝
2. 発表標題 イタリアの土地利用規制を伴う風景計画と風景アトラスの策定状況に関する研究
3. 学会等名 日本都市計画学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 降旗賢人、宮脇勝、高取千佳
2. 発表標題 名古屋大学「ランドスケープ・オブザーベトリー」設置のための研究 GIS データベースの作成と公開について
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田淵祐哉、宮脇勝、高取千佳
2. 発表標題 GIS による「ランドスケープ・ユニット」と「東海アトラス」の作成に関する研究
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉崎航、宮脇勝、高取千佳
2. 発表標題 名古屋市の都市計画公園の形成類型と震災復興仮設住宅で不足する公園面積の算出
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮脇 勝
2. 発表標題 国際景観学とアーバンデザイン
3. 学会等名 適塾路地奥サロン（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮脇 勝
2. 発表標題 現在の名古屋の魅力を共有するためにできること：「名古屋アトラス」の作成と行政との協働
3. 学会等名 名古屋大学建築学教室 まちと住まいの集い
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 宮脇 勝 他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 名古屋大学	5. 総ページ数 50
3. 書名 Records of International Architectural and Urban Design Workshops for Students 2009 - 2019	

1. 著者名 山口 敬太、福島 秀哉、西村 亮彦、長谷川 浩己、星野 裕司、柴田 久、宮脇 勝、脇坂 隆一、新屋 千樹、八木 弘毅、吉谷 崇、中島 恒次郎、奥田 好一、西山 穂、徳永 哲、安仁屋 宗太、高尾 忠志、永村 景子、末 祐介、二井 昭佳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学芸出版社	5. 総ページ数 240
3. 書名 まちを再生する公共デザイン	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------